

熱の正体：努力と結果の パラドックス

なぜ「結果はどうでもいい」は、
逃避にも、最高の到達点にもなるのか。

The Anatomy of Heat — Mindset Shift

「結果なんかどうでもいい」 という言葉の2つの顔

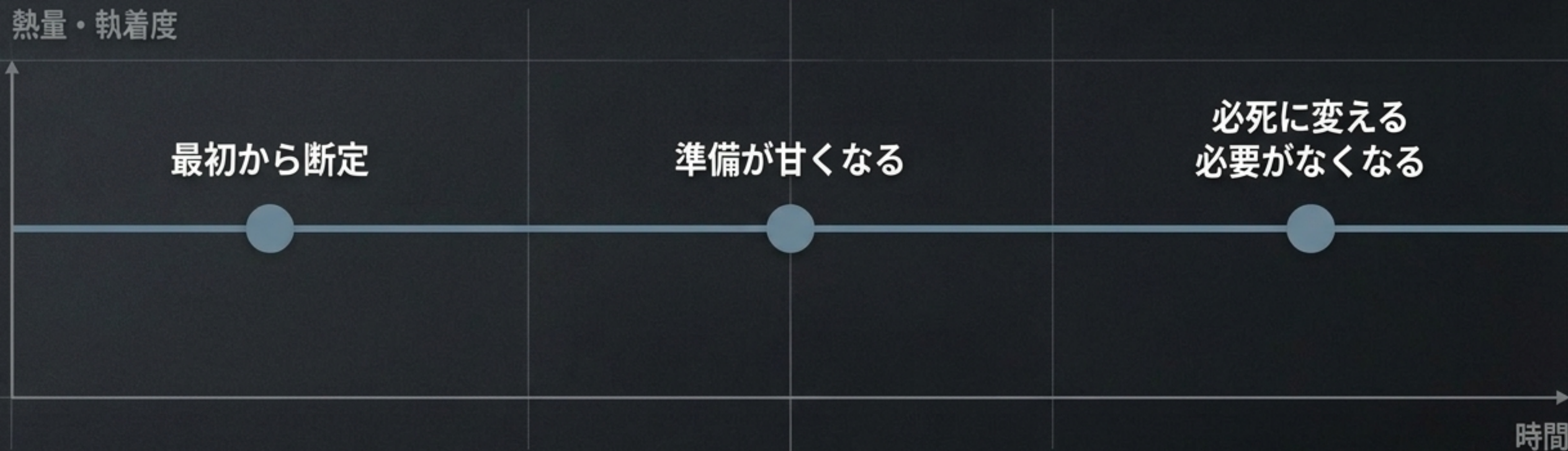
- ・ スタート地点で発せられる言葉
- ・ 意味：責任の放棄
- ・ 結果：逃避

「結果なんかどうでもいい」

- ・ 限界まで熱中した先に到達する境地
- ・ 意味：プロセスへの完全な没入
- ・ 結果：超越

どんな結果でも熱く取り組み続けることと、先に降りることは、正反対だ。

はじめから結果を手放す者は、 準備も工夫も手放している



届かなくても構わないのだから、必死になる理由がない。
それは「結果への執着を手放した」美しい姿勢ではなく、単に「結果を目指す責任を放棄した」だけだ。

努力の請求書：中途半端な熱が生み出す「見返りの計算」

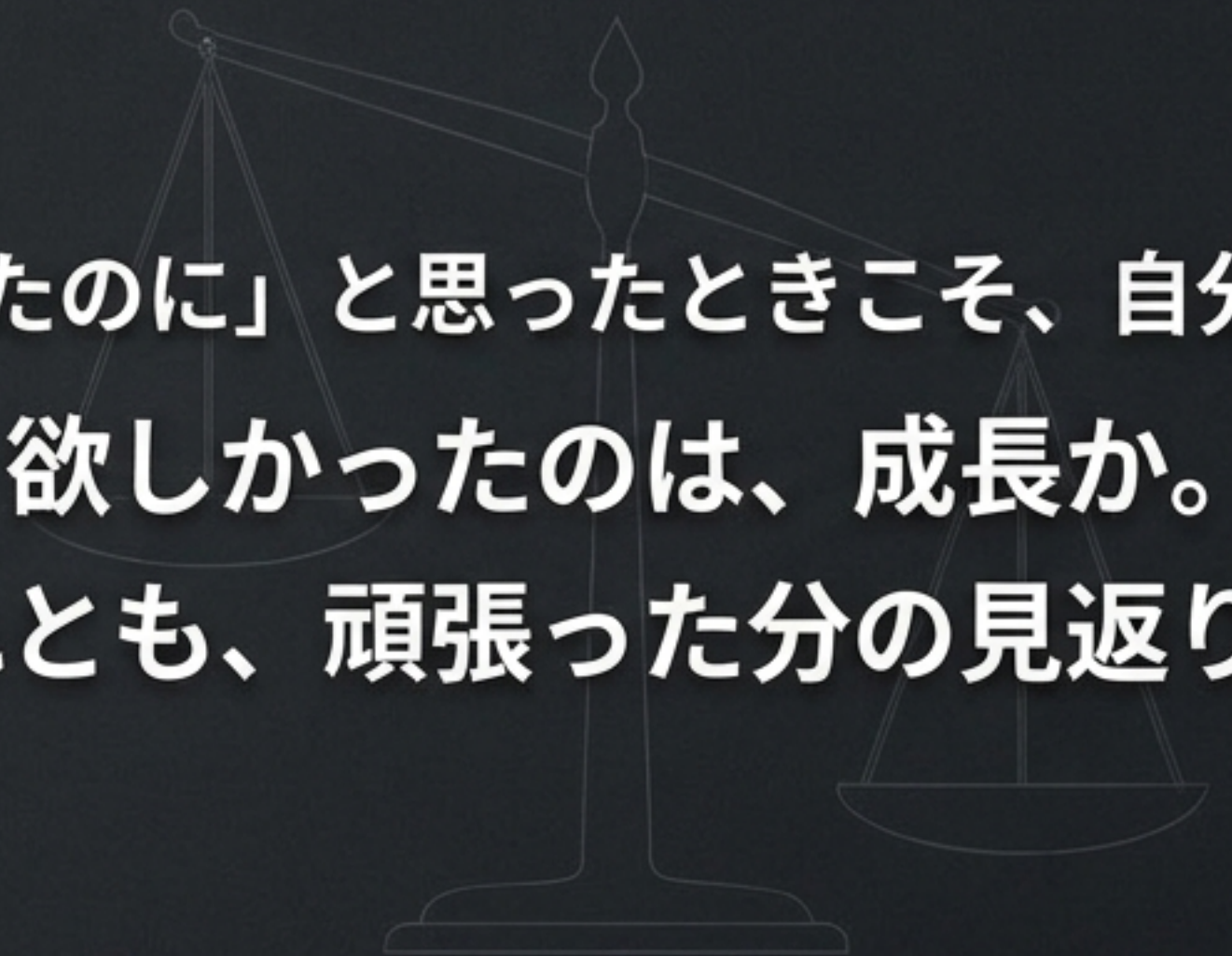
ご請求内容

「これだけ練習したのに」

「1万円も払ったのに」

ご請求合計：確実な上達と勝利

中途半端に取り組むと、人は結果に対して「代金」を請求したくなる。努力をトランザクション（取引）として捉えている証拠。



「これだけやったのに」と思ったときこそ、自分に問うことだ。

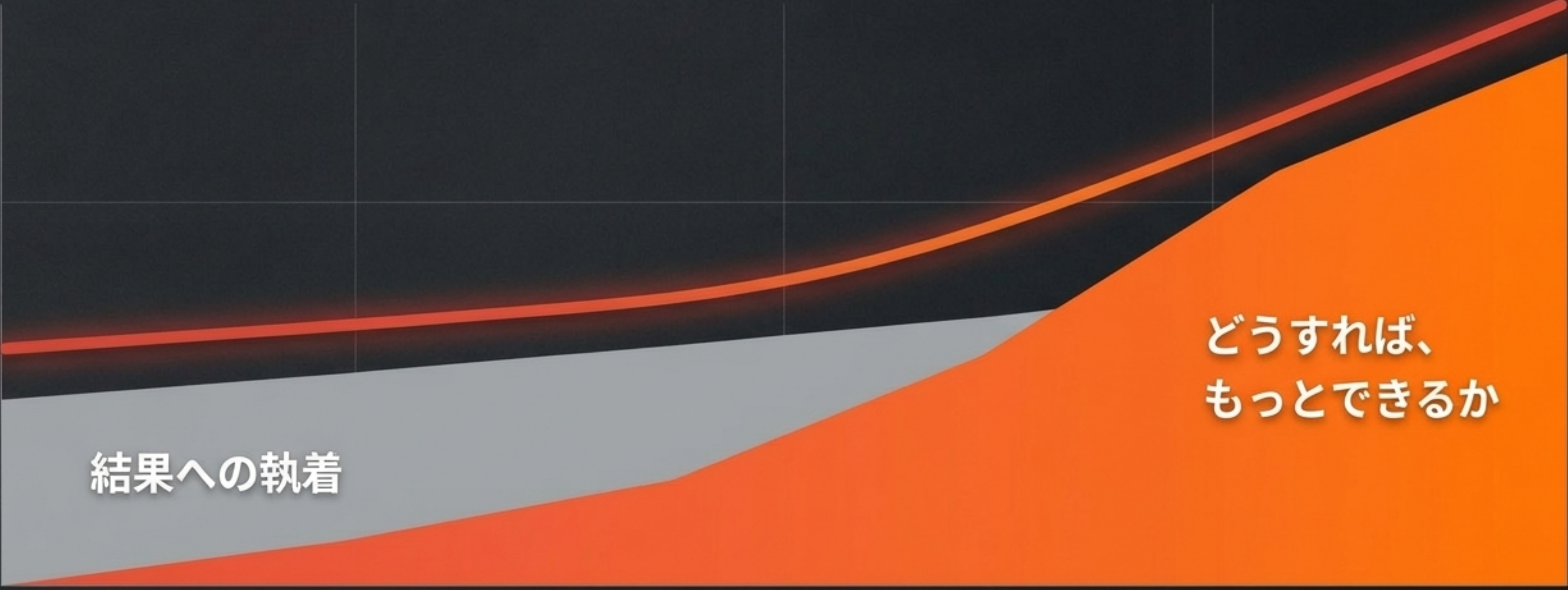
費やした努力 欲しかったのは、成長か。

それとも、頑張った分の見返りか。

期待する結果

限界まで熱く取り組むと、 別の意味で「結果」がどうでもよくなる

勝ちたいから工夫する。できないから試す。
試したら、新しい課題が見つかる。
頭の中が「次の工夫」でいっぱいになり、
見返りを数えている暇がなくなる。



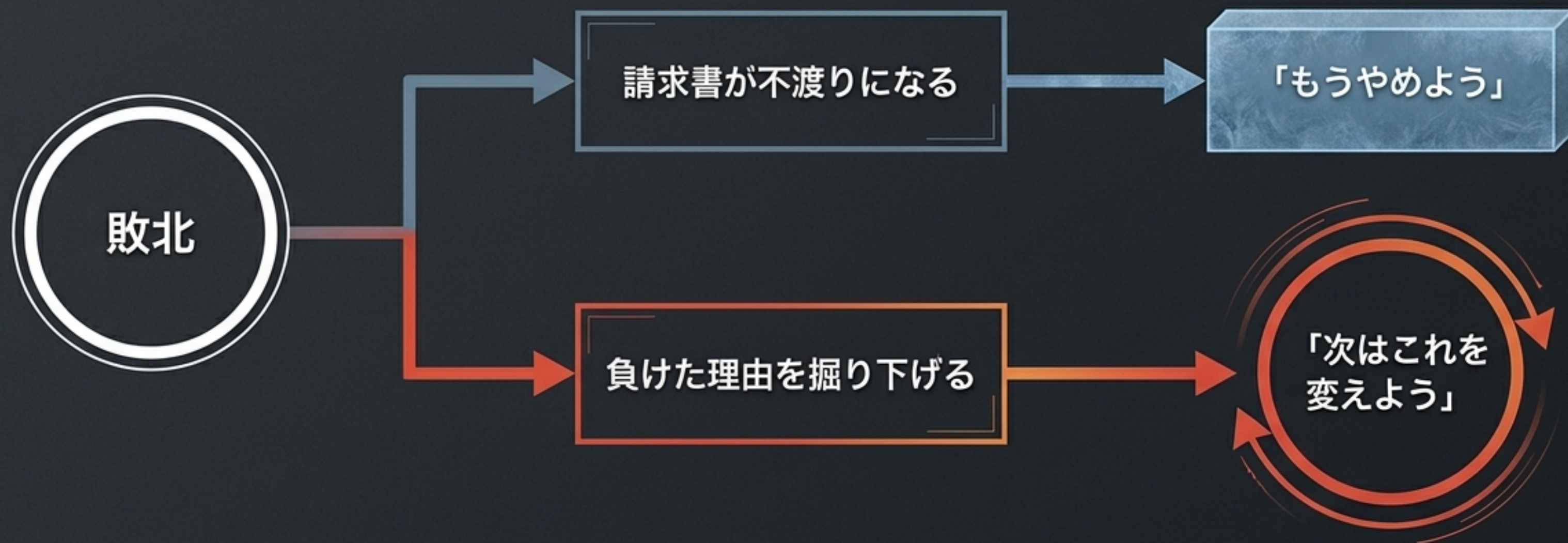
結果への執着

どうすれば、
もっとできるか

2つのマインドセット：あなたはどちらの「熱」を持っているか？

比較次元	報われるのを待っている人	熱中している人
努力の捉え方	支払った代金（これだけやったのに）	実験のための投資（どうすればもっとできるか）
結果へのスタンス	努力に対する「見返り（請求）」	次の課題を見つけるための「データ」
敗北・失敗時の反応	不満、「もうやめよう」（熱が冷める）	悔しさ、「次はこれを変えよう」（熱が継続する）
最終的な境地	報われないことに疲弊する	見返りを数える暇がなくなる

敗北の解釈：「もうやめよう」と「次はこれを変えよう」の分岐点



結果は見る。しかし、報われなかったからといって、取り組みの熱は冷めない。結果から次の課題を拾うだけだ。

伴走者の役割：慰めではなく、熱を反射させる

Diagram A

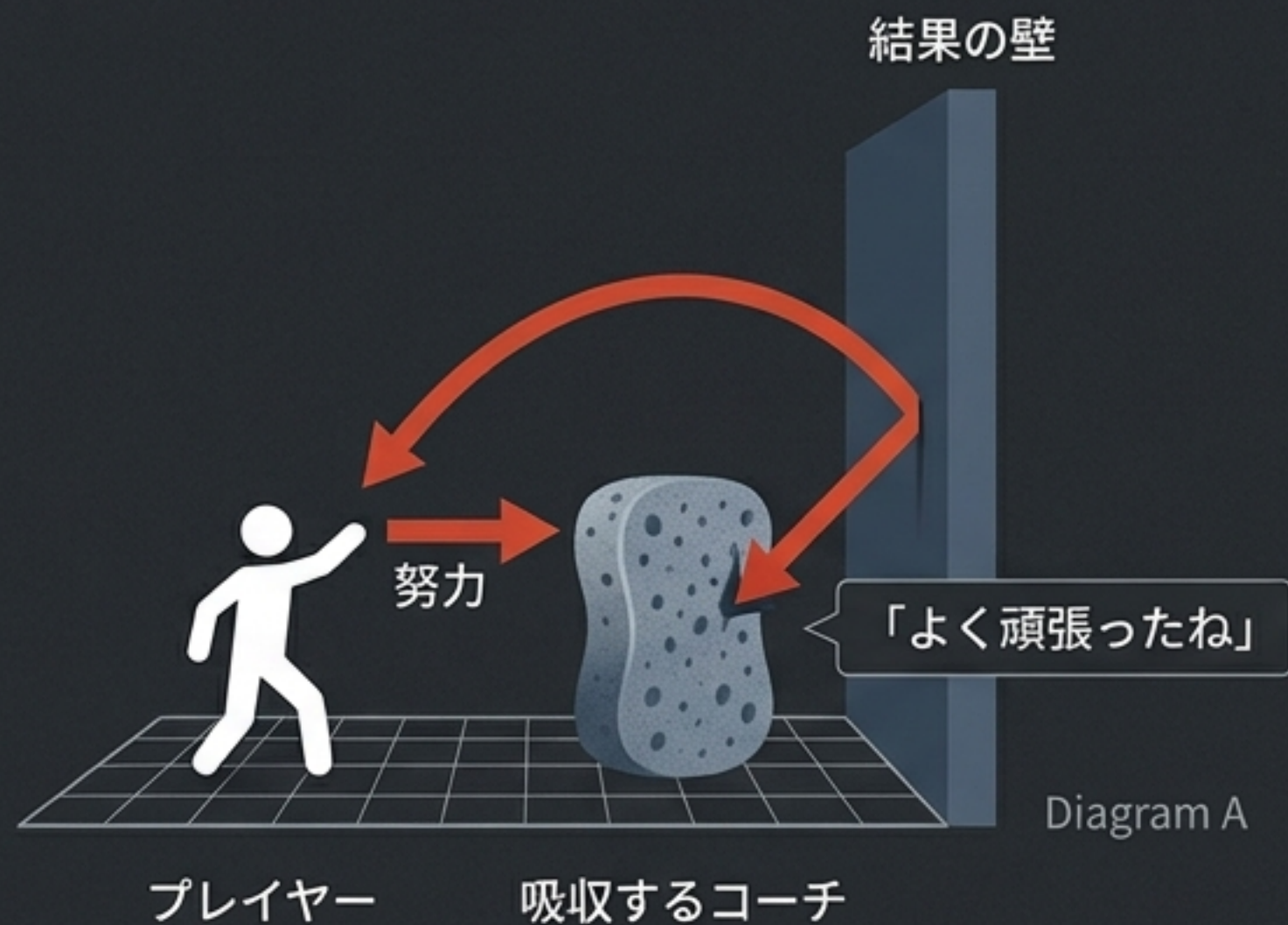
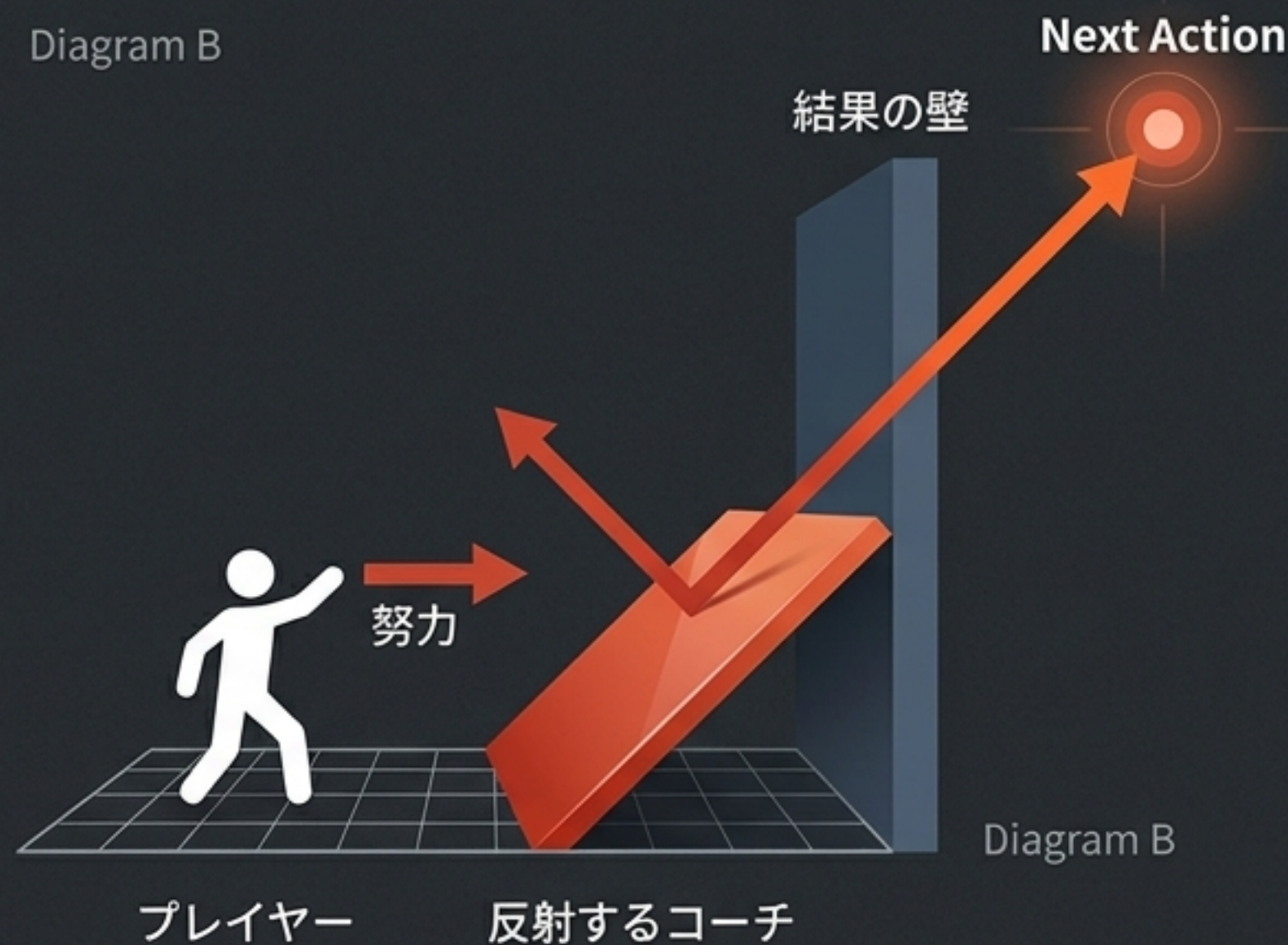
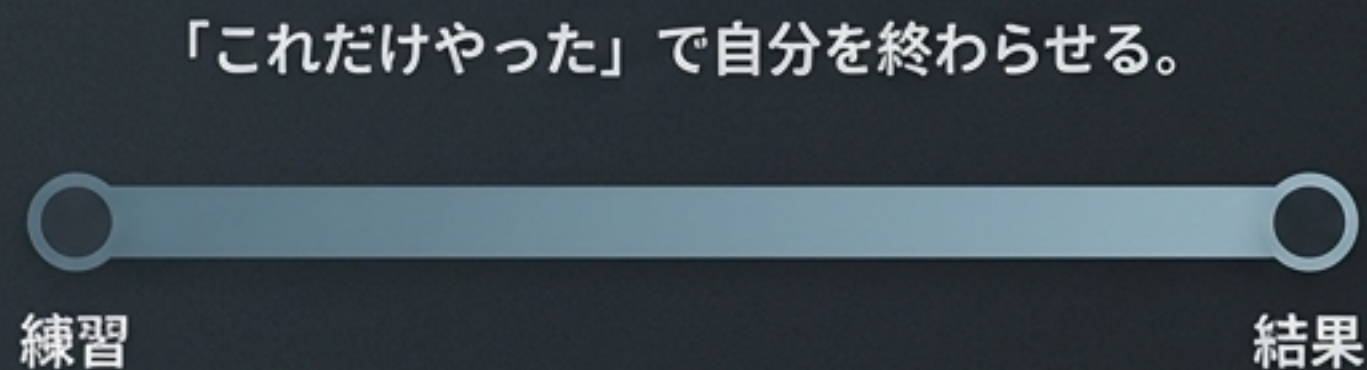


Diagram B



「これだけ丁寧に教えたのだから」と、働きに見返りを求めない。届かなければ、届く言葉を探す。問われるのは、そこから何を変えるかだ。

The Shift : 終着点から、新たな出発点へ



結果は最終地点ではない。次のループを回すための着火剤だ。



**結果を求めているのに、
結果に取り組みを止めさせない。**

最初から「どうでもいい」と逃げ道を用意するのではない。
結果を真っ向から引き受け、そこからもう一度、自分の行動をつくる。
それが、真の熱の正体だ。